

今日のトピック 業績悪化懸念を織り込む日本株式市場

業績底入れのタイミングは20年第1四半期頃か
ポイント1
年初の水準にほぼ戻る
TOPIXの予想PERは年初来の11倍台

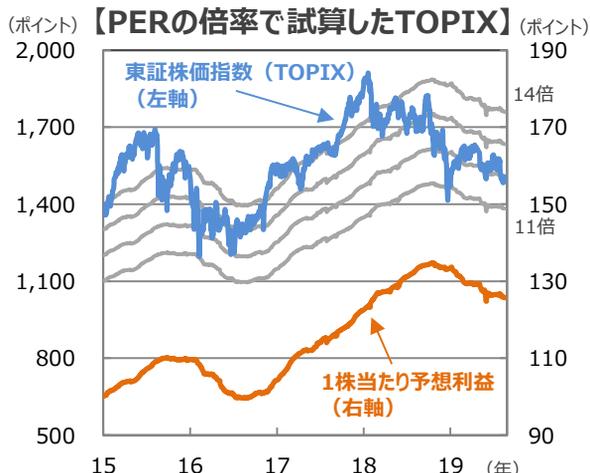
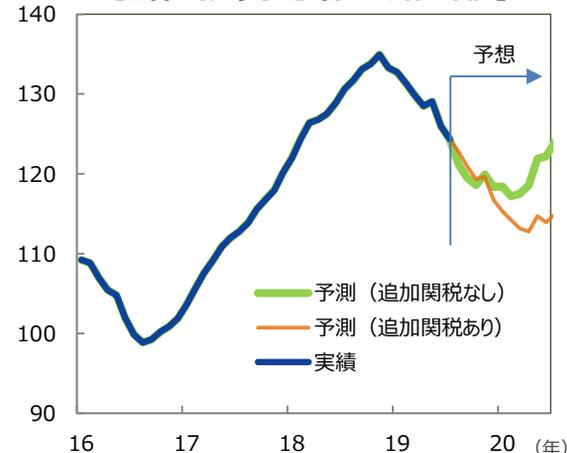
- 日本株式市場は、調整基調が続いています。米中貿易摩擦の影響で日本企業の業績が悪化傾向にあり、これが投資家のセンチメントを悪化させていることなどが背景です。東証株価指数（TOPIX）は8月13日以降、終値ベースで1,500ポイントを割り込み、予想株価収益率（予想PER）が11倍台をつけるなど、年初の水準にほぼ戻った状態です。

ポイント2
業績底入れは20年第1四半期頃か
米国と欧州の景況感の改善に期待

- 今後は、日本の企業業績の悪化がいつ底入れするか、が重要なポイントになりそうです。業績の見直しに対して、米国、中国、欧州、日本の景況感の見直しなどを用い、マクロ面から試算しました。その結果、米国から中国への追加関税が発動されなければ2020年2月頃、発動されれば4月頃と予想されます。地域別では中国の景況感の改善には時間がかかる見通しですが、米国と欧州の景況感の改善が期待されます。

今後の展開
来年年初にかけて日本の株式市場は徐々に回復すると期待

- この業績見直し等を前提に、今後の株価の見直しを考えてみます。まず、バリュエーションですが、予想株価収益率は11倍台となっており、業績の悪化を相当程度織り込んでいると考えられます。
- 次に、株価と業績の関係を見ると、業績の回復に先行して株価が上昇する傾向が確認できます。日本も緩やかですが景況感の改善が期待できそうです。株価はこうした動きを事前に織り込むと考えられることから、来年年初にかけて日本の株式市場は徐々に回復すると期待されます。


【1株当たり予想利益の推計値】

**ここも
チェック!**
2019年8月19日 日経平均株価がPBR1倍割れとなる状況とは？
2019年8月16日 米長短金利逆転を受けて下落した米国株式市場

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。